

Safe Volu

(Former First Aid)

静岡県赤十字安全奉仕団機関紙

平成22年12月1日発行

平成22年度大道芸ワールドカップにおける救護活動について 報告

平成22年11月4日～7日に開催された「大道芸ワールドカップ in 静岡2010」において、静岡県赤十字安全奉仕団は救護ボランティアを展開しました。

当日は天候にも恵まれ162万人の観客数があり、後半の2日間は特に小さな子供さんからお年寄りまでとても賑わっていました。

4日間において安全奉仕団は、延べ83人が活動し、94件の救護活動を行いました。幸い小さな傷の手当が多く、救急要請も1件（めまいで転倒）であったことをご報告いたします。

大道芸ワールドカップ救護ボランティアに参加して

私が大道芸にボランティアとして参加するのは今回で2回目になります。最初に参加することとなった経緯は、昨年に日赤の救急員養成講習会を受講したことから始まります。救急法については若干の知識はありましたが、前年に参加した妻の薦めもあって、改めて勉強しようと発起し、3日間講習会に参加しました。受講終了時に受けた救急法救急員の試験も何とかクリアし認定を受けることが出来たのは、ご指導いただいた講師の先生方のおかげであると感じています。この感謝の念と、習得した救急救命法を形骸化させたくない気持ちが私を救護ブースに詰めさせているのだと思います。

私は、11月6、7日の2日間の参加になりました。参加形態は昼夜の2部に分かれます。6日は昼夜共、7日は昼のみ（最終日は夜なし）救護ブースに詰めました。経験の浅い私が何故かブースのリーダーを仰せ付き非常に緊張していたのが思い返されます。幸にもブースでの対応は擦過傷や捻挫で訪ねてくる方がほとんどでした。昨年は2回の救急車要請を経験しただけに、今年は多数のお客様が無事に大道芸を楽しんで帰られたのだと、ほっとしたことを思い出します。

頼りにならないリーダーである私を支えてくださった他のボランティアの方々に、まずもってお礼を申し上げます。救護ブースが暇であるということは、何よりうれしいものです。暇な時間に皆さんと交流し、時間配分して休憩していただくよう調整したことが私の行った仕事となりました。

今年、実行委員として活躍された後藤先生、柴田先生の仕事を傍から見せていただいて、私もやるべきことがまだあったのでは無いかと、反省しきりです。そのやるべきことを探す機会を、来年に得たいと思っています。

(報告者 岩瀬秀範)

第15回静岡県西部地区救急隊員・看護師研究発表会について

安全奉仕団委員長 上條様より標記について情報提供がありましたのでお知らせします。

とき 平成23年1月15日（土） 午後2時～4時半

場所 アクトシティ浜松 研修交流センター 音楽工房ホール

当日は、救急隊員及び看護師の研究発表の他、山下亮輔氏による「18歳の生存者 - JR 福知山線脱線事故 被災者の立場から - 」と題して体験発表が行われる予定です。

特別講演

JR福知山線脱線事故
被災者の立場から

18歳の 生存者

講師 山下 亮輔



～プロフィール～

1987年兵庫県伊丹市生まれ。両親、3歳年下の妹との4人家族。県立伊丹北高校時代はラグビー部に所属し、副キャプテンを務めた。

2005年近畿大学法学部に入学して間もない4月25日、JR福知山線脱線事故に遭遇。マンション地下駐車場に激突した1両目から18時間後に救出される。クラッシュ症候群による両足の壊死、切断の危機を乗り越え、10カ月の入院生活ののち退院。事故の後遺症により、歩行には両足の装具と杖が必要となる。

2006年4月、同大学に復学、2010年4月から伊丹市役所健康福祉部健康生活室障害福祉課に勤務している。

